

シリーズ 1,いつまでも楽しめる宿根草の庭づくり

(3)「宿根草の花壇デザイン」

富山職藝学院 教授 渡邊美保子

宿根草の庭づくりで一番大切なことは、根っこが育つ花壇のデザインを考えることにあります。地表から最低でも60cmは有機質と微生物のたっぷり入った土壌が必要です。といっても落とし穴を掘るように土を60cm掘り起こそうなんて考えてはいけませんよ。そんなことをしたら鉢底の穴がふさがれた巨大な植木鉢に宿根草を植えるようなものです。水がたまり、根が腐ってしまいます。どうやって地表よりも、高く土を盛るかというデザインを考えるほうが簡単です。太い丸太を寝かせるのもいいでしょうし、石を積むのもいいでしょう。そのまま畑の畝を作る要領で土盛りをしてもいいでしょう。ただし、この場合は土が流されないように放射状に根が張る植物で土留めをすることをおすすめします。

さて、土盛りのポイントですが、土を盛る前の地面は、決して耕さないことです。水が緩やかに流れるように足で踏み固め地面に水勾配をつけてから土を盛りましょう。この方法なら誰でも簡単に宿根草の寝床を作ることができます。地面を掘らずに土を盛る方法は、いったん雨が降ると水のたまりがちな富山の土壌で宿根草を栽培するのに適しています。

さて、次に大切なことは植物の組み合わせです。基本となる考え方は、自然をお手本にするということです。自然を眺めてみますと、さまざまな種類の植物がバランスよく生育しています。人の手を借りたわけでもなく、水も肥料も与えられないのに、

その環境を好む植物がいつのまにかグループをつくるように多くの生き物たちと共生しながら生きています。宿根草の庭も同じで、少量多品種を混ぜて植えることにより、植物だけではなく小さな生き物たちの住みかも生まれます。害虫がついても、大量発生を抑えることにもつながります。

では、どんな宿根草を選んだら良いのでしょうか？

一つ目は耐寒性のあるもの。これは基本中の基本ですね。二つ目は同じ栽培条件で育つもの。そして三つ目は自分の好きなもの、これが一番大事です。また、宿根草の庭づくりが自分の性格が向いているかどうかポイントです。待つことを楽しめる人ならとてもすばらしい庭をデザインすることが出来ます。なにせ、苗を植えてから最低3年は宿根草を気長にコツコツと観察することを楽しめる人でないといけません。10年も続ければそれは立派なデザイナーになるでしょう。いつまでも楽しめる宿根草の庭づくりにぜひ挑戦してみてくださいね。(終わり)

